

小特集

奄美の世界自然遺産 登録に向けて

国境を越えて世界の人々が協力し、未来の世代に引き継いでいくべき人類共通のかけがえない財産、それが「世界遺産」です。
国内には、屋久島、白神山、知床、小笠原諸島の4つの世界自然遺産があります。
貴重な動植物が多く生息する、鹿児島県から沖縄県の南西諸島にまたがる「奄美・琉球」は、次の世界自然遺産登録候補地として選定されています。



登録に向けた取り組み

県では登録へ向けて、環境に配慮した公共事業の指針づくりや、持続的な観光を進めるための方針づくり、自然や文化を生かした地域づくりなどを進めています。

- 1 阿佐集落サンゴの石垣（喜界町）
- 2 フクギ並木（天和村）
- 3 寺崎海岸（与論町）
- 4 昇竜洞（知名町）



自然と一体！森林体験

奄美自然観察の森

奄美自然観察の森は、植物や野鳥の観察、森林浴が楽しめる自然体験型の施設です。樹々の間を縫う散策路を抜け展望台に向かうと、太平洋と東シナ海の両方を望めます。今後のリニューアルでさらに魅力的な森林体験フィールドへと変化していきます。

ガイドの様子▶



龍郷湾

大自然と文化に触れる

奄美世界自然遺産トレイル（仮称）

トレイルとは、森林や原野、里山などの「歩く道」のこと。奄美世界自然遺産トレイル（仮称）は、奄美の大自然や文化などの魅力を体感できる道として、群島全体でコースを作り、ロングトレイルとしてつなぎます。

県では今年度から、地域の方とコース選定を始め、順次開通していく予定です。



河内川（宇検村）

阿佐集落サンゴの石垣（伊仙町）

独自の自然と文化を 次世代へ

世界的に稀少な動植物と、豊かな自然に育まれた独自の文化など、魅力にあふれた奄美群島。奄美大島は、LCC（格安航空会社）の就航で、首都圏からのアクセスも便利になりました。島々の美しい大自然や文化は、訪れた人の心を揺さぶる感動の世界。人類の共通の財産である豊かな自然を次世代へ受け継ぐために、世界自然遺産登録に向けた取り組みは続きます。



大島紬に独特の美しい光沢を与える泥染め

奄美三線を弾きながら歌う島唄

約500年の歴史がある調牛（徳之島）

「男はつらいよ」のロケ地となった加計呂麻島

国の重要無形民俗文化財の祭事平瀬マンガイ（奄美大島）

【問い合わせ先】県庁自然保護課 奄美世界自然遺産登録推進班 ☎099-286-2759

世界自然遺産登録への道のり

奄美群島は、平成30年の世界自然遺産登録を目指しています。



マングローブ原生林（奄美市住用町）

年度	登録への道のり
H15.5	国の検討会で、奄美・琉球が世界自然遺産の登録基準を満たす可能性が高い地域として選定される
H25.1	政府が奄美・琉球を世界遺産暫定一覧表へ記載することを決定
H25.12	奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会が4島（奄美大島、徳之島、やんばる、西表島）を候補地とすることを決定

《今後の手続き》

国立公園に指定

ユネスコ世界遺産センターへ推薦書を提出

世界遺産委員会の審査

世界遺産リストへの登録

島の貴重な生き物とその価値

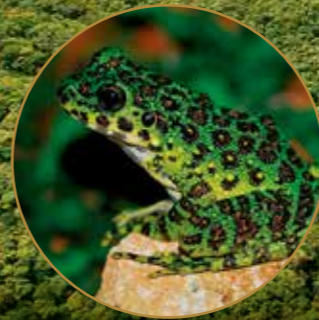
奄美大島と徳之島に広がる亜熱帯照葉樹の森には、絶滅が心配される生き物や、他の地域では見られない貴重な動植物が暮らしています。国の天然記念物をはじめ、稀少な生態系が守られていることから、奄美大島と徳之島が世界自然遺産登録候補地に選ばれました。



太く根を張ったガジュマルの木（常田守氏提供）



アマミノクロウサギ。奄美大島と徳之島にのみ生息する国の天然記念物。



イシカワガエル。鮮やかな緑と金色の斑点が特徴で、県の天然記念物。



瑠璃色の体毛が美しいルリカケス。奄美群島のみに生息する国の天然記念物。



奄美大島のみに分布するラン科のアマミエビネ。絶滅危惧種に分類される。